

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム円頓寺東館

作成日: 令和 5年 3月 10日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	○チームで作る介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について本人・家族・必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	長期目標は1人ひとりに合った目標を作成し、短期目標は具体的なものにし利用者・家族・職員が共に達成する喜びが感じられる介護計画の作成を心がける	現場職員への担当者変更に伴い、計画作成の業務内容、進め方を共通のものとする為に、計画作成担当者の会議の開催、様式の見直しを行いながら担当者会議では、利用者・ご家族・職員皆で作りあげるプランとなるように取り組んでいきます。	12ヶ月
2	6	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会に参加し、ユニット会議で振り返る機会を持つ。職員の身体拘束への意識を高め、玄関に施錠しない・利用者の外出に見守りながらついていくなど、東館の大切にしている支援、スピーチロックスは職員で注意し合うことができる。	委員会への参加をうながし、ユニット会議での司会を皆が行う、玄関の施錠についても共同生活の場ですが、1人1人ペースがあり、地域で生活する住人様の「家」であるという事と、行動には色々な想いがあり、1カ月後、2カ月後の姿を想像し関わるという事を、振り返る機会をもちます。	12ヶ月
3	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所「理念」をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	出かけた時間帯や、要望を聴きながらお参りや買い物、地域バザーなど、ご本人のペースに寄り添いながら自然な形で地域に出かけられる機械の支援	理念の「人生たのしく 自分らしく」が新しく入職される職員に浸透していく為に、常勤職員は伝える側を体験する、入職時のオリエンテーションを大切に行う、伝え方見せ方など経験を増やしていきます。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。